

## 平成 28 年度第 1 回栃木県総合教育会議における発言要旨

- 1 日 時：平成 28 年 5 月 25 日（水）
- 2 場 所：栃木県公館中会議室
- 3 テーマ：学力の向上と生活習慣の定着について

発言者	主な発言要旨
宇田教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに知ることの楽しみ、考えることの意味、考え抜くことのつらさ、深い理解に達成したときの感激などを知ってもらう授業が理想である。</li> <li>・教師の資質を上げるなど、学校の役割や教育環境を整えるといった教育委員会の役割を果たしていかなければならない。</li> <li>・学校と家庭は車の両輪であり、学校は家庭に対して、子どもへの関わりや家庭でやるべきことなどを示していく必要がある。</li> </ul>
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師を先進的な県に派遣し、実際の教育現場で学ばせることが重要である。</li> <li>・教師が現場で十分に力を発揮できるような環境づくりが重要である。</li> <li>・先進地から学んだり、県内で横断的な勉強会等を実施し教師がお互いに学びを深めるなどの取組が必要である。</li> </ul>
伏木委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が授業に傾注できる環境を整えなければならない。</li> <li>・他者との競争だけではなく、できなかったことができるようになる喜びなどを教えられるような教師の指導力に期待する。</li> <li>・教師の役割と家庭の協力を明確化させ、児童生徒が安心して学べる環境づくりが必要である。</li> </ul>
工藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣を定着させるため、親の力・意識を高めていくことは重要であるが、現実には非常に難しく、学校のフォローがより大切になってくる。</li> <li>・今後の学習指導要領の改正等も含め将来を見据えた先進的な取組（eラーニング・アクティブラーニング・プロジェクト学習等）も必要である。</li> </ul>
陣内委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力が伸びている県の取組など、全国学力・学習状況調査の結果を詳細に分析する必要がある。</li> <li>・教師の多忙の解消策を検討し実践していく必要がある。</li> <li>・県教育委員会として考える学力観というものをしっかりと捉え、その在り方を探求する必要がある。</li> </ul>
岡委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝早起きの生活習慣を定着させるため、家庭内でのルール作りが必要である。</li> <li>・学校を通して親、家庭に発信していくことには限界があり、PTA連合会等との連携も必要と思われる。</li> <li>・県内市町村教育委員会間の連携を促進し、優れた学力向上の取組等の情報の共有化を図る。</li> </ul>
福田知事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに成功体験をどうやって数多く味わってもらうか、そのための仕掛けをどう作っていくのが求められている。</li> <li>・家庭と学校がより連携して取り組んでいくことが重要であり、併せて、教育委員会と知事部局との連携も重要である。</li> <li>・尊敬される教師というのはどうあるべきか、もう一歩高めていくことが必要である。</li> </ul>